

様式1 令和元年度 山梨県立韮崎工業高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	ものづくりを通じて地域産業界に貢献できる技術者の育成
-----------	----------------------------

山梨県立韮崎工業高等学校校長 跡部 和男

本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣を確立し、総合人間力の育成に努める	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4 良くできている。
	2 基礎学力の定着を図り、生徒の進路実現に努める		B 概ね達成できた。(6割以上)		3 できている。
	3 生徒会活動・部活動を通して豊かな人間性と逞しい身体の育成に努める		C 不十分である。(4割以上)		2 あまりできていない。
	4 社会的自立・職業的自立に向けた力を身に付けた、工業のスペシャリストを育成する		D 達成できなかった。(4割以下)		1 できていない。

自己評価						
番号	評価項目	本年度の重点目標	年度末評価(3月1日現在)			
				具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果
1	基本的な生活習慣を確立し総合人間力を高める指導の充実	①教職員の情報の共有化に努め、遅刻を繰り返す生徒の原因究明を行い、継続的な指導に努める。 ②バイク・自転車安全運転教育・点検の充実と自転車の交通ルール、マナー違反の改善に努める。 ③7S活動の徹底、通学路のゴミ拾い、環境標語コンテスト等を実施し、環境美化意識及び愛校精神の涵養に努める。	各月ごとの数的推移 実施結果の検証 アンケート及び実施結果の検証	・遅刻を繰り返す生徒は家庭や精神面で問題を抱えている。会議等で情報共有することで適切な指導ができた。 ・交通事故件数は昨年より減少したが、自転車事故が目立った。イヤホン着用等、交通マナーに関する苦情があり、ルール違反、マナー違反については更に指導を徹底する必要がある。 ・工業科での7S活動を徹底、清掃活動の徹底を図った結果、アンケートでは、8割を超える生徒が肯定的な回答であった。	B	・遅刻をする生徒数は減少したが、特定の生徒が遅刻を繰り返している。生徒支援的な視点から心の成長に働きかけるような指導が必要である。 ・交通事故は減少したが、今後も粘り強く、命の大切さやルール・マナーを守る必要性を説いていく。 ・防災美化委員の活動機会を増やし、活動を通じて、生徒自ら、校内美化に取り組む意識を高めていく。
2	基礎学力定着のための指導と個々の生徒の進路実現及び夢の実現にむけた指導	①わかる授業実現と評価方法の見直しを図りながら、生徒の学習意欲の向上に努める。 ②基礎学力が不十分な生徒への補足的な課外学習等に努める。 ③自己実現にむけて各種進路行事・活動に積極的に取り組ませるとともにコミュニケーション能力の育成を図る。	授業アンケートと授業観察 基礎力テストの結果の検証 アンケート及び進路実績の検証	・学校評価アンケートより、87%の生徒が「先生は、わかりやすい授業を工夫している」と回答。同じく87%の生徒が「テストだけでなく、様々な観点から評価してくれる」と回答している。 ・放課後の補習等については、92%の教員が実施している。ただし、家庭学習に取り組んでいる生徒は49%であった。 ・進路先決定までの行事や活動は計画どおり進めることができ、生徒も積極的に取り組んだ。	A	・今後も継続的に「わかる授業」の実現と評価方法の見直しを行い、生徒の主体的な学習を図る。 ・家庭学習の定着を図るために、各教科の評価基準や課題の出題方法などを工夫していく。 ・進路実現は本校の最重要ポイントであるため、今後も企業と連携を取りながら進路行事を充実させるとともに、挨拶や対人マナーなどを指導徹底していく。
3	生徒会活動・部活動の活性化と活動を通して豊かな人間性と逞しい身体の育成	①生徒会活動を通しての自主自律の精神と道徳性の向上に努める。 ②指導内容の工夫や生徒による主体的な活動を推進し、部活動の活性化を図る。 ③地域に開かれた学園祭の企画と立案や広報活動に努め、積極的な取り組みを図る。	アンケート及び活動実績の検証 アンケート及び活動実績の検証 実施後アンケート結果	・工業高校らしい学園祭を目標に生徒・教職員の意見を反映して企画運営から見直した。 ・レスリング部では、インターハイでの準優勝、全国グレコ大会、茨城国体での優勝など、多くの大会で好成績を収めた。全国総文祭へは太鼓部・写真部が出場、新聞委員会は文化連盟賞を受賞。 ・開かれた学園祭を目標に、近隣の住民への広報活動を積極的に行ったが、台風により外部公開は中止となった。	A	・学園祭は台風の影響により、予定していた外部公開が中止となったが、次年度も「工業高校らしい学園祭」に向けて企画を検討していく。 ・部活動の推進に向けて、主体的に取り組む生徒を増加させる必要がある。 ・近隣住民の招待するなど「開かれた学園祭」として広報活動に積極的に取り組んでいく。
4	高度な知識・技術を習得した工業のスペシャリストの育成	①企業実習や企業見学への事前指導を強化し、効果的なインターンシップの実施に努める。 ②進路実現・資格取得に向けて地域連携ものづくり事業を有効に活用する。 ③産業技術短期大学校等の外部機関と連携し、国家技能検定などの高度資格に挑戦させ合格者の増加を図る。	実施後アンケート結果 取得実績の検証 取得実績の検証	・企業実習では、ほとんどが製造業となり、協力企業も増加している。本年度も多くの企業の協力を得られ、事前指導を強化しながら実施できた。 ・資格取得では、延べ取得数が13年連続1000件を突破。ジュニアマイスターゴールドに25名が認定され、その内9名は特別表彰を受賞した。ジュニアマイスターシルバーは18名が認定。 ・技術者による実践的指導も実施し、技能検定合格者は過去最高となった。	A	・企業実習は、実施協力企業の開拓をより一層進めていく。特に可能な限り製造業の開拓を図ることが大切である。 ・目的、企業調べなどの事前指導を強化し、キャリア教育の基礎的・汎用的能力を育成していく。 ・今後も産短大や職業能力開発協会などと連携し、高度な資格取得へ向け、外部技術者による実践的な技術指導を実施していく。

学校関係者評価	
実施日(令和2年2月5日)	
評価	意見・要望等
4	・生徒の相談や指導に、学校的全職員が協力し合って取り組んでいる。 ・生徒指導ではご苦労いただいていることも多々あるが、今後も尽力をお願いする。 ・地区内のバイク、自転車の通行マナーについて指導をお願いしたが、年度初めに比べて大分改善されてきている。 ・登校時の生徒たちの服装や挨拶がしっかりとされている。 ・生徒の人間力、トータルでどう育てるかが重要である。教員側の指導力と生徒たちの自ら学ぼうとする意欲が合致すると、すごいパワーが出てくると感じた。 ・授業を参観し、落ち着いた授業に参加していると感じた。
4	・基礎学力が不十分な生徒や資格取得に向けて補充授業などの放課後の指導を丁寧実施している。 ・各種進路行事や活動に積極的にと組ませていることは評価できる。 ・令和2年度の前期入試志願倍率が1.39倍と、県下で4番目に高くなったことは、定員枠が減ったとはいえ、普段の先生方の努力のあかしだと思う。さらに魅力ある学校づくりに向けて期待する。 ・若い人を採用して育てていきたいという企業が多くなっている。学校では引き続き、社会へ得ていく生徒たちの指導をお願いする。
4	・生徒会活動も生徒の自主性を引き出しながら、教員と生徒が一体となって活動している。 ・学校、生徒、保護者協力のもと、韮崎工業高校の活性化に取り組んでいることは評価できる。 ・レスリング部、太鼓部などの全国的に活躍しているクラブがあるのは、他のクラブへの良い影響を与え、全校生徒にも愛校心が生まれることと思う。 ・一人暮らしの高齢者宅の清掃活動や、支援学校への木工製品の提供等、地域に貢献しようという姿勢が良いと思う。 ・専門知識を生かした学園祭など、工業的精神が生徒会活動に生かされている。
4	・課題研究発表は、教員の指導のもと素晴らしい発表であった。 ・さらに上位学校や企業との連携を密にとり、より先進的な学習活動に取り組んで欲しい。 ・今後も企業実習や進路実現、資格取得に向けて生徒指導をお願いする。高度な知識・技術を習得した工業のスペシャリストを育成することは、これからも大変重要なことと思う。 ・拡大学校評議員会では、企業との情報交換会に参加したが、このような企業の生の声を聴く機会があることは大変良い。次年度以降も継続的に実施し、企業の声をキャリアや教育に反映させて欲しい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

## 平成31年度版 改善計画

学校名： 韮崎工業高等学校

No.	項目	現状と課題	H32年度に目指すべき状態	①H31年度に実施する内容 ②H32年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	（現状） 会議資料は事前配布するとともに、要点を絞った提案を行い効率化を図っている。 （課題） 会議（委員会）の精選と更なる内容の効率化、構成員の見直しなどを検討する必要がある。	会議（委員会）の精選と構成員の見直しを行い、効率的な会議運営が行われている。	①会議資料の事前配布及び事前確認を徹底する。 ①終了時間の設定を行う。 ①効率的な提案を実施する。 ②目的や内容を明確にし、会議（委員会）の精選を検討する。 ②内容によっては参加者を追加・削減するなどし、必要十分な構成員となるよう検討する。 ②既存の委員会等の活用を検討する。	A
2	学校行事の負担軽減	（現状） 行事が多く、準備や運営に時間と労力を必要とする。 （課題） 行事の精選や効率化を図る必要がある。	行事の重要度を考慮した削減を行い、効率的な運営が行われている。	①各行事にて、昨年度よりも効率的な運営を実施する。 ①必要に応じて事後アンケートなどを行い、重要度を確認する。 ②目的や教育的効果を再検討し、行事の廃止、縮減を図る。 ②担当者交替時の負担を軽減するため、マニュアル化を進める。	B
3	校内組織の見直し	（現状） 分掌が多く、複数の分掌に所属しているため、仕事が多岐化している。 （課題） 複数の分掌への所属を解消するため、分掌の統合、削減を図る必要がある。	限られた人員での適切な配置と業務分担により、効率よく業務を遂行している。	①業務を確認し、誰もが引き継げるような標準化（マニュアル化）を図る。 ②分掌の統合、削減と構成員数の適正化を検討する。	B
4	業務の効率化	（現状） 共同作業や分担が明確でなく、一部の職員に負担がかかりすぎている。 （課題） 作業を分担すると共に、業務の必要性を見直し、負担を分散する必要がある。	行事会議等が見直され、業務の削減と負担の分散が行われている。	①分掌業務のマニュアル化を進める。 ①電子データの共有を図り、紙資料を削減する。 ②作業の内容を再確認し、グレースウェアやメールを活用するなどし、効率化を図る。	A

5	部活動の負担軽減	<p>(現状) 複数顧問を配置しているが、休日の指導など負担が大きい。</p> <p>(課題) 顧問間で役割を分担し、適切な休養日の設定をすすめる必要がある。</p>	教職員のワークライフバランスが確保され、適切な部活動完全休養日が実施されている。	<p>①「きずなの日」を月2日設定。</p> <p>①土日での完全休養を月1日以上目指す。</p> <p>①四半期ごとの管理職による部活動状況の確認と指導助言。</p> <p>②顧問間のワークシェアリングにより負担軽減を図る。</p> <p>②部の削減、合併を検討する。</p>	B
6	地域人材の活用	<p>(現状) 実践的技術力向上事業や企業連携による実習授業など、地域企業からの講師による指導を受けている。</p> <p>(課題) 資格取得や技能検定の指導が大きな負担となっている。指導者を増やし負担を分散させる必要がある。</p>	外部講師を活用し、資格取得などに効果的な指導が行われている。企業実習や外部講師の授業などで、実践的な指導が展開されている。	<p>①マイスター等の活用により、専門的な技術指導を実施する。</p> <p>①企業技術者による、より実践的な授業を実施する。</p> <p>②資格取得等の指導が一部の職員に偏らないよう、教員の指導力の向上を図る。</p> <p>②地元企業と連携して、企業技術者による授業実習の充実を図る。</p>	A
7	(学校独自の項目)				
8	(学校独自の項目)				

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。